



主催：日本表面真空学会中部支部
後援：応用物理学会東海支部



市民講座 やさしい表面と真空の科学

地震と防災の科学

日本表面真空学会中部支部では、毎年、市民講座を開催しています。今年の市民講座のテーマは「地震と防災の科学」です。今年の元旦に発生した能登半島地震が多くの被害をもたらしたことは記憶に新しいところですが、振り返ってみると震度7の大きな地震は、2018年の北海道胆振東部地震、2016年の熊本地震、2011年の東日本大震災、2004年の新潟県中越地震、そして1995年の阪神・淡路大震災と、この30年以内に日本各地で発生しています。私たちの住んでいる地域も、いつ大きな地震が発生してもおかしくありません。そこで今回は、地震学や建築、防災・減災の最先端で活躍されている3名の先生方をお招きしご講演頂きます。地震という地球の表面で発生する現象について理解を深め、いつやってくるか分からない巨大地震に、私たちがどう備えるべきかを考える機会として、ぜひご参加下さい。

日時 2024年7月27日(土曜日) 13:30～16:40
会場 名古屋工業大学1号館 0111講義室 (名古屋市昭和区御器所町)
定員 50名(参加費無料、定員超過などの場合はご連絡いたします)

プログラム

13:30～13:35 あいさつ (支部長)
13:35～14:25 “地震研究の現状と課題 –予知は可能か?、防災に役立つのか?”
鷺谷 威 先生 (名古屋大学 減災連携研究センター)
14:25～14:40 ～休憩～
14:40～15:30 “木造住宅の耐震化促進に向けた課題と取り組み”
井戸田 秀樹 先生 (名古屋工業大学 高度防災工学研究センター)
15:30～15:45 ～休憩～
15:45～16:35 “想像力の欠如に陥らない防災”
岩田 孝仁 先生 (静岡大学 防災総合センター)
16:35～16:40 むすび (副支部長)

お申込み方法

- ・メールの表題は「表面真空学会中部支部市民講座申し込み」としてください
- ・メール本文に(1)参加人数、(2)代表者氏名、(3)御所属(学校名、職業等)を記載
- ・メール送付先:佐藤英樹(三重大) sato@elec.mie-u.ac.jp

頂いた情報は、市民講座への参加者の把握・連絡にのみ使用いたします。

締め切り 2024年7月24日(水)

申込み・問合せ先 :支部長 佐藤英樹(三重大)

E-mail: sato@elec.mie-u.ac.jp

会場への交通 JR 中央線「鶴舞」駅または地下鉄鶴舞線「鶴舞」駅下車 徒歩 5～10 分
1号館 1階 0111 講義室 (正門から正面に見える建物の左側にある建物です)
アクセス詳細: <https://www.nitech.ac.jp/access/index.html>

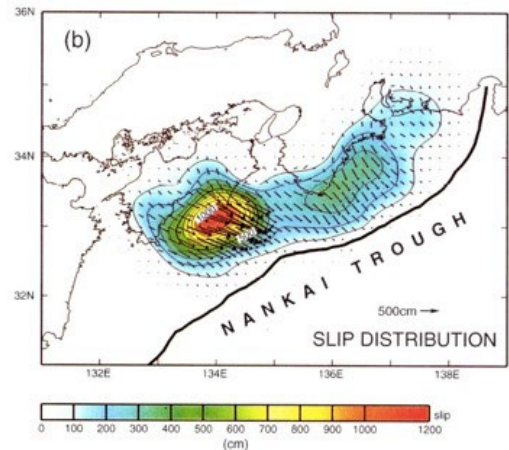
市民講座 URL https://www.jvss.jp/chapter/cyubu/Shimin_Kouza/shimin_chubu_2024.html

【講演の概要】

“地震研究の現状と課題 一予知は可能か？，防災に役立つのか？”

鷺谷 威 先生（名古屋大学 減災連携研究センター）

世界有数の地震国である日本では、地震による災害軽減を目的として古くから様々な研究が行われてきました。こうした研究を通して地震に関する理解は進んでいますが、その一方で防災・減災に直接つながるような研究成果が得られているとは言い難いのが現状です。本講演では、歴史的な経緯を踏まえて地震研究の現状と課題について議論し、2024 年能登半島地震や南海トラフ地震についても言及します。



“木造住宅の耐震化促進に向けた課題と取り組み”

井戸田 秀樹 先生（名古屋工業大学 高度防災工学研究センター）

来たる南海トラフ巨大地震で想定されている建物倒壊による死者数は最悪の場合 6 万 5 千人。このほとんどは古い木造住宅の倒壊による犠牲者です。1995 年の阪神淡路大震災で木造住宅の耐震化がいかに大切か、私たちは痛いほど思い知らされました。しかし、木造住宅の耐震化はいまだにほとんど進んでいません。この講演では、住宅の耐震化の現状と、安価な耐震改修工法を普及させて住宅の耐震化を促進する取り組みをご紹介します。



“想像力の欠如に陥らない防災”

岩田 孝仁 先生（静岡大学 防災総合センター）

現代社会は様々なインフラ整備に伴い土地本来の持つ災害脆弱性を認識し難くしています。直下で起きる南海トラフ巨大地震や過酷さを増す水害に対し、防災対策は想定外が生じないように想像力を駆使し、予めあらゆる対策を実行しておくことが重要です。

